

# 平成26年度 事業計画書

自 平成26年4月 1日

至 平成27年3月31日



## 基本方針

### 「総幸福の明るい世界の実現」を目指し 広めよう“幸せの種まき運動”

昨年度は安倍首相の推し進める“アベノミクス”効果により国内経済において少し明るさが見え、また2020年オリンピックの東京開催決定、富士山の世界遺産登録など、久し振りに明るい雰囲気が出てきた年度となりました。

しかし一方では猛暑や豪雨さらには竜巻など地球温暖化による環境変化が原因と思われる自然災害の多発や、スポーツ界における暴力指導問題やアルバイト社員による悪ふざけネット投稿事件、有名ホテルにおける食材偽装事件などモラルの低下が懸念される事件も多く見られました。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とそれによって引き起こされた福島原子力発電所事故の被災地、被災者への復興、支援は3年経った今もなかなか進まず、特に福島原発における汚染水処理が新たな大きな問題となって今後の復興に大きな影を落としています。

こうした中、修養団では昨年度も引き続き「青少年仮設住宅訪問（炊き出し）ボランティア」「SYD復興ボランティア隊 in 石巻」などの活動を行い、多くの青年たちが“幸せの種まき”の実践を通して被災者の方々に幸せの笑顔をお届けして参りました。

修養団は平成26年2月11日に創立108周年を迎えましたが、修養団の願いは創立以来一貫して「総親和、総努力による総幸福の明るい世界の実現！」です。

その目標実現へ向かっての運動として平成8年の創立90周年より“こんにちは！どうぞ！ありがとう！の幸せの種まき運動”を展開し、年々少しずつではありますが着実に広がり、定着してきている事を実感しております。

そこで平成26年度の基本方針を『「総幸福の明るい世界の実現」を目指し 広げよう“幸せの種まき運動”』とし、平成26年度においても修養団の最終目標である「総幸福の明るい世界の実現」へ向かってその第一歩となる“幸せの種まき運動”をさらに一人でも多くの人に広めるべく、修養団の役職員、会員、同志と手をつなぎ、努力していく所存です。

いつの日か“幸せの花”が咲き誇る「総幸福の明るい世界」が実現する事を願って！

# I. 青少年活動

※子どもゆめ基金は申請中です。

日本の未来を担い将来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性と高い徳性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年育成活動の充実を図る。愛と汗の実践活動として、フィリピンのゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちへの支援活動や東日本大震災などの被災者に対する支援活動を継続して展開する。

## 1. 子ども自然体験活動

“愛と汗”の精神に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活をとおして、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

### (1) 夏期子ども自然体験キャンプ

#### ア. 子どもゆめ基金助成活動「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援》

期 日 8月 <各3泊4日>  
開 催 数 4会場（あつさぶ・桧原湖畔・いばらき・沖縄）  
\*桧原湖畔・沖縄キャンプは障害児各5名、被災者各15名を招待。  
スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー15～25名  
対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒  
募集人員 各50～70名

#### イ. SYD主催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 8月 <各3泊4日>  
開 催 数 2会場（富士山・関西）  
スタッフ等 各会場スタッフ10名、リーダー20～25名  
対 象 小学2年生～中学3年生の児童生徒  
募集人員 各70～100名

#### ウ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 日 7月下旬～8月 <各3泊4日～4泊5日>  
開 催 数 6～7会場（美幌・房総・岐阜・広島・山口・北部九州・鹿児島）  
スタッフ等 各会場スタッフ8～10名、リーダー20～30名  
対 象 小学1年生～中学3年生の児童生徒  
募集人員 各50名～120名

#### エ. 子ども自然体験キャンプ担当者会議《子どもゆめ基金助成活動》

期 日 5月連休 <2泊3日>  
開 催 数 1回  
スタッフ等 SYD指導者等4～5名  
会 場 ばんだいふれあいびあ  
参 加 者 15名（キャンプ実施担当者）

## オ. キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

期 日 6月～7月 <各2泊3日>  
開 催 数 4会場  
派遣講師 各1名

## カ. 印刷物の作成

①子ども自然体験キャンプリーフレットの作成《子どもゆめ基金助成活動》

部 数 15,000部  
体 裁 A3版、4色刷り

②子ども自然体験キャンプ報告書の作成

部 数 1,000部  
体 裁 A4版、80頁

## (2) 冬期子ども自然体験キャンプ

### ア. 冬期子ども自然体験（スキー）キャンプ

開 催 数 2回（12月、3月） <各4泊5日>  
会 場 ばんだいふれあいぴあ、裏磐梯スキー場  
スタッフ等 スキー指導員各2名、SYD指導者各3名（事務担当者含）、  
募集人員 リーダー各20名（高校生・大学生）  
キャンパー各40名（小学1年生～中学3年生）

## (3) 夏期少年少女合宿講習会（青年会議所との共催事業）

開 催 数 2回（7月～8月） <各2泊3日>  
会 場 伊勢青少年研修センター  
対 象 小学生  
定 員 各100～120名  
予定団体 （一社）伊勢青年会議所、（公社）岸和田青年会議所

## (4) 40kmナイトウォークの集い

開 催 数 1回（9月）  
会 場 伊勢青少年研修センター他  
対 象 小学3年生以上の子供・一般  
定 員 100名  
内 容 40kmの夜間歩行

## 2. 子どもボランティア活動推進事業

### (1) 東日本大震災仮設住宅訪問青少年ふれあいボランティア

#### 《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

中学生・高校生が中心となって被災者の暮らす仮設住宅を訪問し、手作りのカレーやコーヒーを提供するなかで、協力し合い、話し合い、喜びを分かち合う活動を行う。また、ゲームや遊びを通して、子どもたちの歓声が聞こえるようなふれあい活動を行う。このことにより、青少年がボランティア活動の真の喜びを体感し、思いやる心や豊かな人間性・社会性を高め、自ら考え行動できる力を育むことを目的に実施する。

期 日 通年（3連休や期間休みに実施） <各2泊3日>  
開催数 年5～6回  
開催地 活動拠点：ばんだいふれあいぴあ  
活動先：震災仮設住宅（宮城県石巻市・名取市、福島県新地町等）  
対 象 被災者のことを真剣に考え行動できる青少年  
募集人員 各回共リーダー 3名（大学生等青年）  
参加者 15名（中学生～高校生）

## （2）幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

地域、学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介するなど、ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状を理解する機会を提供する。このことにより、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、“青少年の豊かな心”を育むことを目的として全国的に開催する。

### ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」の実施

期 日 通年  
開催数 全国60～70会場  
実施組織 学校（生徒会、ボランティア部・JRC等のクラブ、学童保育等）、市町村教育委員会・公民館、PTA・子ども会など各種団体・グループ、連合会等組織  
派遣講師 各2～3名 ※フィリピンでのボランティア経験者(学生含)  
実施概要 (1)参加者 15名以上  
(2)プログラム 90分(標準) 他

### イ. パンフレットの作成・配布

部 数 14,000部  
体 裁 A4版、8頁、4色刷り  
配布先 14,000カ所

## （3）子ども週末体験活動《子どもゆめ基金助成活動》

地域活動の専門家や実践者を講師に招き、ふるさとの歴史・文化や産業・特産品について実際に学んだり、体験したりするワークショップを行い、地域の歴史・伝統文化への理解を深める。また、地域の文化施設や福祉施設を訪問し、地域に貢献するボランティア活動を実践するなど、ふるさとへの絆を深めるための活動を行う。

### ア. 絆を深めよう！子どもの学VIVA

開催数 全国5会場（原則として1泊2日）  
期 日 5月～平成26年3月  
指導者 各2名（SYD講師1名、外部講師1名）  
青年リーダー 各5名（大学生等の青年）  
募集人員 各25名（小学校1年生～中学3年生）

### 3. SYD指導者の養成

各種体験活動においてリーダーとして活動している、あるいは今後リーダーを目指す中学生・高校生・大学生等の青少年が一堂に会し、自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな実践活動を実践し、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得し、年間をとおして体験活動を展開するSYD指導者の養成に努める。

#### (1) 自然体験活動リーダー養成

##### ア. 自然体験活動リーダー研修会《子どもゆめ基金助成活動》

開催数 全国7会場<原則として各1泊2日>  
期 日 5月～8月  
指導者 SYD指導者等各2名  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各15～20名

#### (2) 社会奉仕体験活動リーダー研修会

##### ア. 全国青年ボランティア・アクション in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

福祉・災害ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設、震災で避難生活を余儀なくされている仮設住宅等での社会奉仕活動を実践し、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得することによりボランティア精神を涵養し、指導者としての資質の向上を図る。

開催数 2回<夏休みと春休み各5泊6日>  
開催地 福島県及び被災地仮設住宅(石巻市、名取市、新地町)  
スタッフ等 SYD指導者等各5名  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 各25～30名

##### イ. 全国青年ボランティア・フェスティバル《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

近年、震災や台風などの自然災害の被災者に対し、多くの青少年が多彩なボランティア活動を行っている。そのような活動を通して様々な学びを得た青年たちや今後のボランティア活動を模索する青年たちが一堂に会し、活動発表会や分科会を行うなかで、今後の活動の広がりや更なる取り組みを模索し、青少年ボランティア活動の活性化を推進する。

期 日 11月1日(土)～3日(祝・月) <2泊3日>  
会 場 国立または県立青少年自然の家・青少年交流の家等の公共施設  
スタッフ等 SYD指導者等各5名  
対 象 将来SYD指導者を目指す中学生及びキャンプリーダー等の青年  
募集人員 40名

##### ウ. 報告書の作成

部 数 1,000部  
体 裁 A4版、86頁

### (3) SYD指導者資格認定制度

愛と汗の精神を理解し、自然体験活動や社会奉仕体験活動等を日常的に展開する指導者の養成を目的に、SYDの理念を学ぶSYDアカデミーを青年組織と開催し、指導者資格証を発行するなど、SYD指導者資格認定制度の運用と充実を図る。

## 4. 青年組織育成

“愛と汗”の精神に基づいた、自然体験・社会奉仕体験を年間を通して展開する青年組織の育成・充実に努める。

### (1) 青年ボランティアゼミナール《子どもゆめ基金助成活動》

開催数	年8回
講師	各1名（国内外のボランティア経験者等に委嘱）
会場	SYD会議室
対象	東京近郊の青年リーダー
募集人員	各20名

### (2) 指導者の派遣と青年組織活動への助成

青年部組織の強化・拡大と活動の充実・活性化を図るため、指導者の派遣と組織活動への助成を行う。

#### ア. 指導者の派遣

派遣回数	10～15回
派遣期間	1日～3泊4日

#### イ. 青年組織活動への助成

## 5. 関係機関・団体との協力

青少年教育及び社会教育の関係機関及び諸団体との連携を図り協力し合い、青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動を展開する。

## II. 国際交流

### 1. 青年ボランティア・アクション in フィリピン

フィリピンケソン市パヤタスのゴミ捨て場で働く子どもたち（スカベンジャー）やマニラ市のストリートチルドレン（路上で生活する子どもたち）を訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進する。このことにより、日本の青少年の国際的視野を広げ、国際協力の精神を涵養し、国際協力における実践力を培い、学校や地域で活動する青少年指導者を育成する。

期 日	8月下旬 <6泊7日間>
訪問地	マニラ市、ケソン市 等
スタッフ	2名
参加者	25名（ボランティア活動に強い関心があり、ボランティア活動指導者を目指す中学生及び高校生以上の青年、満15歳以上から35歳位まで）
主な日程	マニラ市内のストリートチルドレンやパヤタスのスカベンジャー（ゴミ捨て場で働く子どもたち）とのふれあい活動やボランティア活動等



## 2. ブラジルとの指導者交流事業

### (1) ブラジルへの指導者派遣

ブラジル修養団の要請に応じて指導者を派遣し、日伯文化協会等と連携しながら開催される青少年講習会や教育講演会及びブラジル修養団青年指導者研修会等に従事する。

期 日 1月～2月 <40日間>  
派遣者 SYD講師1名

### (2) ブラジル青少年指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプなどの参加・研修することにより、ブラジルで開催される青少年講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図る。

期 日 7月中旬～8月中旬 <26日間>  
招聘者 青年リーダー 1～2名

## 3. 関係機関・団体主催事業への派遣・受入協力

内閣府、国立青少年教育振興機構等が実施する青少年や指導者を対象とした国際交流派遣事業に積極的に参加者の推薦を行うとともに、国内における各種国際交流活動への指導者・青少年の参加を促進する。

## Ⅲ. 講習会・講演活動

企業・団体等の社員、または個人を対象に「良き企業人であると共に、良き社会人であれ」をモットーに、「愛と汗」の精神を基本にした健全な価値観を形成し、より良い人格を研くことを目的に開催する。また、受託講習会・セミナーや講演会に講師を派遣し、“愛と汗”の精神の普及に努める。

### 1. 伊勢講習会

#### (1) みがく講習会

期 日 4月～平成27年3月 <各3泊4日>  
開催数 10回  
定 員 各60名

#### (2) みがく特別講習会

期 日 平成27年2月 <各1泊2日>  
開催数 3回  
定 員 各100名

### (3) 特別講習会

#### ア. 神嘗祭特別講習会 (定員：①+② 120名)

期 日 ①10月15日～17日<2泊3日>・・初穂曳き・神嘗祭コース  
②10月16日～17日<1泊2日>・・神嘗祭コース

#### イ. 初詣新春の集い

期 日 平成27年1月  
定 員 80名

### (4) 受託講習会

#### ア. 3泊4日コース

開 催 数 2回 (平成27年1月～2月)  
定 員 各60名  
実施予定企業＝東芝テクニカルスクール、豊田自動織機技能専修学園

#### イ. 1泊2日コース

開 催 数 10回 (通年)  
定 員 各20～100名  
実施予定団体＝伊勢志摩リハビリテーション専門学校、伊勢の風を感じる会、教育立志会、人間クラブ、わもん会、春風塾、神話を体感する会、千葉・東京合同倫理法人会研修、「教師のみそぎ会」研修会、アニキ (筒井正浩) 塾

### (5) 一般講習会

開 催 数 6回 (通年)  
定 員 各30～80名  
実施予定団体＝日本尺八連盟、天風会行修会、神社本庁総合研究所、志ネットワーク青年塾、3パーセントの会、ゼルネットワーク西日本

### (6) 講演活動

一般企業・青年会議所・PTA・その他各種団体の依頼により講師を派遣する。

## 2. 関東・東北地区講習会

### (1) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗”の人づくりを目的としたセミナー。

期 日 4月 <2泊3日>  
会 場 福島県下  
定 員 50名

### (2) リフレッシュセミナー

中堅社員等を対象として、心身をリフレッシュさせ、新たな活力を生むことを目的としたセミナー。

期 日 平成27年2月 <2泊3日>  
会 場 福島県下  
対 象 18歳以上  
定 員 40名

### 3. 受託セミナー

多様な企業の要望に応えるセミナーを企画し、企業が求める人材育成に貢献する。

実施予定回数 70回

#### (1) ブラインド・ウォークセミナー

“思いやりの心” “信じ合う心” “感謝の心” の三つの心を体感し、より温もりのある心豊かな人間関係を育むことを目的としたセミナー。

コース：半日、1日

#### (2) パート社員セミナー

スーパーマーケット等のパートタイム社員を対象に、職場の人間関係をより円滑にするための心のあり方や対人関係スキルの向上を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

#### (3) 新入社員セミナー

学生から社会人への意識変革を図るとともに、“愛と汗” の人づくりをねらいとしたセミナー。

コース：半日、1日、1泊2日、2泊3日

#### (4) 一般社員セミナー

一社単独による研修や職場リーダーの育成を目的としたセミナー。

コース：1日、1泊2日

### 4. 青少年・社会教育団体等への講師派遣・斡旋

委嘱講師の充実を図り、青少年団体をはじめ学校、諸団体、企業に積極的に働きかけ、講習会・家庭教育講座や人生講座への講師派遣や、レクリエーション、キャンプ等へのプログラムを企画立案し指導者派遣の一層の充実を図る。

## IV. 家庭教育活動

### 1. 家庭力アップ・セミナー（後援：公益社団法人全国公民館連合会）

家庭が本来持っている機能や役割を家庭力とし、その力をよりアップ（発揮）させ、幸せな家庭やイキイキとした地域社会をつくることを目指す。セミナーでは、講演とワークショップを通して、家庭でのコミュニケーションの重要性を確認し、生き方を見直し、生活習慣の改善を行うための具体的実践を提案する。

実施団体は、修養団の連合会・クラブや幼稚園・保育園等とし、広く参加を呼びかける。

開催数	15会場
期間	通年
参加者	各30～80名
講師	各1～2名

## V. 会員組織活動

### 1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員および会員組織と連携を図り、さらに諸団体に呼びかけて、下記事業を展開し、「幸せの種まき運動」を推進する。

#### (1) 愛汗実践塾

「愛と汗」を基本とした修養団の理念を学び、「幸せの種まき」を実践するための意識を高める機会として、連合会・クラブを実施団体として研修会方式を用いながら各地で開催し、会員組織の活性化や会員拡大を図る。

開催数 5会場 〈各1日〉  
参加者 各30名程度  
講師 各1～2名

#### (2) 第6回「チャリティー演芸会」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日 7月4日（金）  
会場 SYDホールほか

#### (3) 第11回「平田康子チャリティーJAZZコンサート」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日 10月17日（金）  
会場 SYDホール

#### (4) 第6回「チャリティーバザー」 — ストリートチルドレン支援 —

開催日 11月15日（土）  
会場 SYDビルエントランスホール

### 2. 会員組織活動への支援と会員加入促進

会員組織がそれぞれの地域や職域で社会貢献活動（幸せの種まき）をすすめるために、会議を開催するほか講師派遣などの支援を行い、会員加入促進を図る。

#### (1) 第3回「全国修養団運動推進会議」

各連合会・クラブの活動を活性化する上で、事業や日常活動を具体的に展開するための協議を行うとともに、各会員組織間の情報交換を行う。

開催日 6月7日（土）  
会場 SYDホール  
参加者 主な連合会・クラブの代表者またはそれに準ずる人 35名

#### (2) 講師等の派遣

派遣数 20回程度（随時）

#### (3) 連合会等主催「皇居勤労奉仕」への支援

実施を支援し、要請によって職員を派遣する。  
実施数 2回 〈各4泊5日〉

#### (4) 『SYDかわらばん<最新活動情報>』の発行・配布

毎月20日（8月を除く）に各1,200部発行し、各会員組織等に配布する。あわせて、ホームページでも全記事を掲載して広報する。

## VI. 幸せの種まき献金活動

1年をとおして募金活動を行い、フィリピンをはじめとする海外の経済的に恵まれない子どもたちや大災害の被災者、福祉施設等を支援する。

### 1. 募金活動

会員や諸事業参加者のみならず、機関誌やホームページによる広報活動で広く募金を呼びかけることで、積極的に募金活動を展開する。また、活動報告書やフィリピンの学資支援を受けている子どもたちを紹介するパンフを作成配布し、この活動への理解者・協力者を広げること努める。

### 2. 支援活動

フィリピンの経済的に恵まれない子どもたちの学資支援をはじめとする支援活動を継続して行うとともに、国内の大災害被災者や福祉施設への支援も行う。支援にあたっては、支援のあり方を「幸せの種まき献金」委員会で検討する。

## VII. 出版・広報活動

### 1. 機関誌『向上』『愛』の発行

#### (1) 『向上』

「幸せの種まき運動」に理解を示す著名人や文筆家に執筆の協力をいただくとともに、修養団の事業や会員組織の活動をわかりやすく紹介して、機関誌にふさわしい誌面作りに努める。

#### (2) 『愛』

修養団の推進する「幸せの種まき運動」を、特に女性会員や青少年会員にわかりやすく紹介し、家庭力アップに役立つ誌面づくりに努める。

### 2. 平成27年版「日々の力」の制作・販売

日々の暮らしの指針となり、幸せの種まき実践へと誘う31の言葉と心温まる絵を日めくり形式にまとめて提供する。

タイトル 心に虹を！

絵と文字 来栖三江（絵手紙作家）

販売目標 17,000部（制作17,500部）

### 3. 教育図書の普及、教材の販売

『人生のことば365日』などの人生書や教育図書、研修教材等の販売に努める。

## VIII. 施設運営事業

### 1. 伊勢研修センター

#### (1) 施設運営

- ア. 講習会を事業の中心として運営する。
- イ. 施設の有効活用を図る。貸し会場としての受け入れを促進する。
- ウ. 施設利用の団体に、愛と汗の精神に基づいた本団教育プログラムを取り入れていただくように働きかける。
- エ. 各種団体との交流を通じて、各事業を展開していく。

## (2) 出版広報活動

- ア. 各種案内パンフレットを作成し、情報発信、広報に努める。
- イ. 『向上』『愛』誌を通じて活動の報告、広報活動に努める。
- ウ. 伊勢青少年研修センター、記念館の案内パンフレットの更新を図る。
- エ. ホームページ等を充実させ、メールマガジンの運用を通じて情報を発信する。

## 2. 修養団SYDビル・SYDホール

- ・セミナー、講演会や各種活動の拠点として一層の有効活用を図る。
- ・2階ホール及び16階会議室の利用を促進する。
- ・テナントに対し、快適なオフィス環境を提供するよう適性管理に努める。

## 3. ばんだいふれあいぴあ

- ・自然体験活動の拠点として、主催事業で利用するとともに、諸団体の利用に供し、有効活用に努める。
- ・施設の整備を行い、利用環境の一層の向上を図る。

## 4. 関西会館

- ・現在空室となっているテナントスペースの利用者の募集を行い、施設の有効活用、適正管理に努める。

# IX. 表彰

## 1. 第9回SYDボランティア奨励賞

都道府県教育委員会、主要市町村教育委員会、キャンプ開催地や参加者のいる小・中学校、高校、大学を中心にSYDボランティア奨励賞・パンフレットを配布、応募を呼びかける。顕著な活動を顕彰することにより、ボランティア活動に対する意識を高揚し、活動への参加を促して青少年の健全育成に寄与する。

### (1) SYDボランティア奨励賞(文部科学大臣賞)贈呈式

表彰式 平成27年2月11日(予定)  
会場 SYDホール

### (2) SYDボランティア奨励賞・パンフレット配布

体裁 A4版、2頁、4色刷  
部数 18,000部  
配布先 18,000カ所

## 2. 平成26年度修養団年次功労者表彰

# X. 110周年プロジェクトの発足

平成28年2月11日に創立110周年を迎えるに当たり、「創立110周年記念大会」の開催およびその内容、その他記念事業等を検討するプロジェクトチームを発足させる。

## **XI. 関係機関・団体、教育界との協力・連携活動**

青少年教育及び社会教育の関係機関、諸団体並びに各地の教育委員会や学校、教師への積極的アプローチを推進し、連携を図り、協力し合って活動を展開する。